



四国がんセンター
婦人科



ドキシル+カルボプラチン療法 を受けられる方へ

さま

主治医

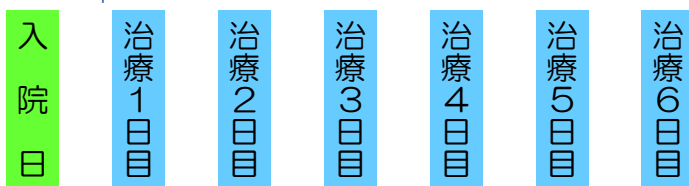
受け持ち看護師

私たち医療スタッフは

- I. 化学療法に対する不安を軽減し、最良の状態で治療が受けられるようにお手伝いします
- II. 治療後の苦痛や副作用を最小限にし、順調に回復され安心して退院を迎えられるようにお手伝いします

ドキシル+カルボプラチン療法のスケジュール

1コース（28日間）



ドキシル



約60分の点滴です

カルボプラチン



約60分の点滴です

・この他に、アレルギー予防や副作用予防のための点滴があります

- ・抗がん剤を投与したときに、過敏反応が起こることがあります
過敏症状がでたら、早めに点滴を止めることが大切です
- ・息が苦しい、胸がドキドキする、吐き気など気分が悪いときは
我慢をしないで、すぐに医療スタッフにお知らせください



治療前の歯科受診について

- ◆治療時に起こる口のトラブルを予防し治療が円滑に進むように、治療開始前の歯科診察を行っています
- ◆治療前の歯科受診では、以下を行います
 - ・レントゲン検査・診察（口腔内の状態を診る）
 - ・歯ブラシだけではとれない細菌の除去
 - ・適切なセルフケア（歯磨き、うがい）指導
- ◆通常1～2回の受診で終わることができます

口の中はとても細菌の多い場所です

治療中や治療後にその細菌が悪影響を及ぼすことがあります

特に、治療後の口内炎・肺炎等を防ぐには治療前から口の中を
きれいにして細菌をできるだけ減らしておくことが有効です



排便について

普段からご自身の便の性状を確認し、入院中に排便調整の目安や方法を医療スタッフと一緒に確認しておきましょう

排便回数が4回以上増えたとき、下記の表の6（泥状便）～7（水様便）の排便が続くとき、周期的に腹痛があるときはすぐに医療スタッフに伝えましょう

3日以上排便がない、いきまないと便が出ない、便は毎日出ているがすっきりしない腹部膨満感などの症状があるときは、排便回数や性状によって緩下剤を使用します

※排便の状況や下痢・便秘の辛さは人によって違います

※排便のコントロールが難しい場合は看護師と解決方法を相談しましょう

便の性状について（ブリストルスケール）

ブリストルスケールは、便のタイプ（硬さ）を7種類に分類した世界共通の尺度です
自分の便のタイプを知り、排便調整の参考にしましょう

1	コロコロ便		硬くてコロコロの 糞糞状の便
2	硬い便		ソーセージ状であるが 硬い便
3	やや硬い便		表面にひび割れのある ソーセージ状の便
4	普通便		表面がなめらかで柔らかい ソーセージ状、あるいは 蛇のようなとぐろを巻く便
5	やや軟らかい便		はっきりとしたしわのある 柔らかい半分固形の便
6	泥状便		境界がほぐれて、ふにゃふにゃの不定形の小片便 泥状の便
7	水様便		水様で、固形物を含まない 液体状の便

入院中の生活の注意点

- ◆治療中は免疫力低下のため、感染リスクが高くなります
マスクの着用、手洗い・うがいをしましょう
入院中、手洗いの動画をテレビの無料チャンネルで視聴できます
- ◆口の中は清潔にするように心がけましょう
- ◆排泄を促すために水分をしっかりととりましょう
- ◆膀胱に尿が溜まったままの状態は、腎臓や膀胱に負担がかかり炎症を起こすことがあります
尿意を感じたら、我慢をしないでトイレに行きましょう
- ◆排尿時に痛みや残尿感がある場合には看護師にお伝えください
- ◆正しく安全に点滴を投与するために輸液ポンプを使用します
 - ・点滴が入っている部位を曲げたり、ねじったり、また、点滴チューブをひっぱったりしないようにしてください
 - ・歩行時は、点滴台を支えにして歩くと転倒する可能性があります
点滴台は、支えにしないようにしましょう



こんなときは看護師にお知らせください

- ★ 輸液ポンプを使用しているときに機器のアラーム音が鳴ったとき
- ★ 点滴が入っている部位に違和感や痛みを感じたり、腫れてきたとき



- ◆抗がん剤治療開始から治療後2日間ほどは、尿や便などから抗がん剤が排出されます
尿や便に直接触れても健康に直接被害を及ぼすことはありませんが、
できるだけ周りに広げないように以下のことに注意しましょう

- ・尿がこぼれた場合は、トイレットペーパーで
きれいに拭き取りトイレに流しましょう
2度拭き取ると良いでしょう



- ・トイレの後、フタがある場合は、**フタをして水を2回流しましょう**
- ・使用済みのナプキンや尿とりパッドは、以下のようにしましょう
 - ＊ トイレ内に設置しているナイロン袋に入れて口を結びましょう
 - ＊ トイレからナースコールを押して、看護師に渡しましょう
- ・トイレのあとは石けんなどでよく手を洗いましょう
- ・尿や吐いてしまったもので衣類が汚れた場合は、ほかの洗濯物と分けて洗濯しましょう

ダイアリー

このパンフレットには、当院での標準的な治療や日常生活で注意していただきたいポイントなどを記載しています

また、よりよい状態で退院を迎えられるように患者さんご自身の目標と医療スタッフの目標をあげています

入院は約1週間の予定です

治療後の回復は、個人差があり、体の状態によっては予定どおりにすすまないこともあります。その都度対応していきますのでご安心ください

私たち医療スタッフは、これからの入院生活を不安なく送れるように支援させていただきます





入院日～治療開始まで

月 日 ～ 月 日

今日の目標

- ・入院生活と治療内容について理解できる
- ・治療中の注意事項について理解できる
- ・心身ともに治療を受けられる状態にある

<時間>

<予定>

11:00	入院	【入院後に以下のことを予定しています】 ・看護師から病院内、病棟内、入院生活の説明（テレビの病院案内も参考にしてください） ・検温、血圧測定、身体測定
12:00	昼食	・血液検査、尿検査、胸部レントゲン、心電図 ・入院前の生活状況や身体状況の聞き取り ・初回治療のときは、管理栄養士より病院食や食事の工夫について説明があります 2回目以降、味覚障害や食欲不振等がある場合、栄養指導を希望される場合は、お知らせください
		治療の流れや注意事項について説明します 過敏症、点滴部位の痛み・血管痛、吐き気・嘔吐について説明します 「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
		<お薬> 他の病院で処方された薬は、一度お預かりします 医師に確認後、続けるか、中止するかをお伝えします
		<食事> 食物アレルギーのある方は医療スタッフにお知らせください 基礎疾患（糖尿病、高血圧等）がある方は、治療食になる場合があります
18:00	夕食	<清潔> シャワー浴は時間内であればいつでも可能です
21:30	消灯	<睡眠> 眠れないときは安定剤を服用することができます



薬剤師から治療の流れや副作用の説明があります
ドキシルの注意点について詳しく記載された冊子をお渡しします

手足や皮膚に摩擦や圧力がかかることをなるべく避けましょう

医療スタッフの目標

- ・安心して治療が受けられるように支援します





今日の目標

- ・副作用症状について理解できる
- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00	洗面、歯磨き、検温、血圧測定
7:30	朝食
9:30	治療前にトイレに行きましょう 点滴を始めます ※抗がん剤の投与前、開始5分後、終了時には、血圧、脈拍を測定します ・点滴をしている腕は、できるだけ曲げないようにしましょう 移動はゆっくり行いましょう
12:00	昼食 点滴をしている側の手はできるだけ使わないようにしましょう
14:00	検温、血圧測定 点滴が終了後、シャワー浴ができます 体調に合わせて体を拭くこともできます 看護師がお手伝いします
	便秘、下痢について説明します 「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照
18:00	夕食
19:00	検温、血圧測定
21:30	消灯

手足や皮膚に摩擦や圧力がかかることをなるべく避けましょう



治療開始後はフタをして水を2回流しましょう

手足症候群の初期症状（しびれ、ピリピリするような感覚異常、やけどのような痛み、手足が赤くなる・はれる・水ぶくれができる、皮膚が厚くなる・硬くなる、潰瘍ができる）が現れたら医療スタッフにお知らせください

医療スタッフの目標

- ・抗がん剤点滴中の副作用症状の早期発見に努めます
- ・抗がん剤の血管外漏出予防に努めます



点滴スケジュール

9：30～ 点滴を始めます 吐き気止めの薬を服用します (コップ1杯の水を準備しておいてください)	
1本目	100ml の点滴を行います
2本目	吐き気止めの点滴を約15分で行います
3本目	50ml の点滴を5～10分で行います 3本目の点滴中に一度トイレに行きましょう
4本目	ドキシル（抗がん剤）が入った点滴を約60分で行います
5本目	50ml の点滴を約5～10分で行います
6本目	カルボプラチン（抗がん剤）が入った点滴を約60分で行います
7本目	50ml の点滴を5～10分で行います 終了後、針を抜きます

ドキシル（抗がん剤）の開始から終了まで、口の中と手足を冷やします

- 口の中は、氷を含むことで冷やします
氷は、点滴開始前にご自身で用意しましょう
- 手は、カバー（手袋）の上からフローズングローブという装具をつけて冷やします
- 足は、保冷剤を使って冷やします
- **冷やしている手足に痛みやしびれを感じた場合は、すぐにお知らせください**
- カバー（手袋）、フローズングローブ、保冷剤は、看護師が用意します
初回治療後、カバー（手袋）はお渡ししますので、ご自宅で洗濯・保管してください
カバー（手袋）は次回の治療でも使用しますので、忘れずにお持ちください

点滴をしている腕はできるだけ伸ばして動かさないようにしましょう

携帯電話や読書のときにも点滴をしている腕は使わないようにしましょう
点滴の管をひっぱったり、体の下に敷き込んだりしないように気をつけましょう
ベッドから起き上がるときは、リモコンを使いましょう

- *針の入っているところが赤い、腫れている、痛みがあるときは
すぐにお知らせください
- *呼吸が苦しい、吐き気がする、胸が苦しい、体がかゆい、
気分が悪いときは、我慢をしないでお知らせください





治療後2日目～3日目

月 日～ 月 日

今日の目標

- ・副作用症状について理解できる
- ・吐き気や便秘がない
- ・動機や呼吸困難がない
- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>	<予定>
6:00	起床 検温、血圧測定 水分をしっかりとりましょう 手足や皮膚に摩擦や圧力がかかることをなるべく避けましょう
7:30	朝食 朝食後、アプレピタント1カプセルを服用します ★毎週金曜日は体重測定します
10:00	検温、血圧測定 副作用と対策について説明します 治療2日目：口内炎、味覚障害・食欲不振、骨髄毒性、手足症候群について 治療3日目：息切れ・動悸、脱毛について 「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照 「がん治療による脱毛に備えて（頭髪編）」パンフレット参照 「ドキシルによる治療を受ける患者さんへ」冊子参照
12:00	昼食 体調に合わせてシャワー浴をしましょう フタをして水を2回流しましょう ・吐き気が強いときは 追加で薬を使うことができます ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます
18:00	夕食 針の入っていたところが赤い、腫れている、痛みがあるときはすぐにお知らせください 手足症候群の初期症状（しびれ、ピリピリするような感覚異常、やけどのような痛み、手足が赤くなる・はれる・水ぶくれができる、皮膚が厚くなる・硬くなる、潰瘍ができる）が現れたら医療スタッフにお知らせください
21:30	消灯 医療スタッフの目標 ・副作用症状の早期発見に努めます 



今日の目標

- ・副作用症状について理解できる
- ・吐き気や便秘がない
- ・動機や呼吸困難がない
- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる

<時間>

<予定>

6:00

起床

水分をしっかりとりましょう

7:30

朝食

★毎週金曜日は体重測定します

手足や皮膚に摩擦や圧力がかかることをなるべく避けましょう

10:00

検温、血圧測定

感染予防のために手洗い・うがいはしっかりしましょう

12:00

昼食

体調に合わせてシャワー浴をしましょう

- ・吐き気が強いときは 追加で薬を使うことができます
- ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます

18:00

夕食

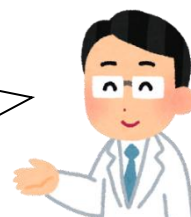
手足症候群の初期症状（しびれ、ピリピリするような感覚異常、やけどのような痛み、手足が赤くなる・はれる・水ぶくれができる、皮膚が厚くなる・硬くなる、潰瘍ができる）が現れたら医療スタッフにお知らせください

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます





退院準備期

月 日 ~ 月 日

今日の目標

- ・副作用症状について理解できる
- ・吐き気や便秘がない
- ・動機や呼吸困難がない
- ・副作用症状出現時は、医療スタッフに伝えることができる
- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる

<時間>

<予定>

6:00

起床

水分をしっかりととりましょう

7:30

朝食

★毎週金曜日は体重測定します

手足や皮膚に摩擦や圧力がかかることをなるべく避けましょう

10:00

検温、血圧測定

退院後の日常生活について説明します
次回外来予約票、入院予約票をお渡しします
2階入院受付で、次回の入院手続きをしておきましょう
「退院後の日常生活について」ページ参照

12:00

昼食

感染予防のために手洗い・うがいはしっかりしましょう

体調に合わせて
シャワー浴をしましょう

- ・吐き気が強いときは 追加で薬を使うことができます
- ・食事は、めん類やフルーツなどに変更もできます

18:00

夕食

手足症候群の初期症状（しびれ、ピリピリするような感覚異常、やけどのような痛み、手足が赤くなる・はれる・水ぶくれができる、皮膚が厚くなる・硬くなる、潰瘍ができる）が現れたら医療スタッフにお知らせください

21:30

消灯

医療スタッフの目標

- ・副作用症状の早期発見に努めます
- ・退院後の日常生活に不安が残らないように支援します



退院日 月 日



今日の目標

- ・退院後の日常生活の注意点について理解できる
- ・退院できる

<時間>

<予定>

6:00

起床
検温、血圧測定

7:30

朝食

10:00

退院
退院前に忘れ物がないようにご確認ください

「入院診療費料金連絡票」を病室にお届けしますので、
2階医事受付窓口でお支払ください

□ カバー（手袋）は、次回治療時に忘れずにお持ちください

□ □の中を冷やすための氷が必要です

次回の治療方法に応じてご準備ください

▶ 入院治療の場合

治療当日に氷をご準備ください

▶ 外来治療の場合

来院時に氷をお持ちいただくか、診察後に治療が決定してからご準備ください
お持ちいただいた氷は治療開始までS受付でお預かりします

治療後、時間が経って出現する副作用もあります

「がん化学療法を受けられる方へ」パンフレット参照

「ドキシルによる治療を受ける患者さんへ」冊子参照

副作用症状について再度確認し、次の治療に向けて体調を整えておきましょう



医療スタッフの目標

- ・退院後の日常生活に不安が残らないように支援します





ウィッグ以外にも
お役立ち製品が色々♪



メイク ネイル用品

ウィッグ 帽子 ヘア用品 ネックカバーなど

治療によって脱毛・肌や爪のトラブルが起こる可能性がある方に、上記展示品の案内や試着を行っています

お住まいの自治体によっては、治療に伴うウィッグに関する助成制度を設けています
詳しくは本館2階『がん相談支援センター』でご相談ください

※暖だんでの販売は行っておりません
気になる製品については購入方法をお伝えしています

体調の変化や副作用症状を書きとめていきましょう

	月日			月日	
1 日目	／			8 日目	／
2 日目	／			9 日目	／
3 日目	／			10 日目	／
4 日目	／			11 日目	／
5 日目	／			12 日目	／
6 日目	／			13 日目	／
7 日目	／			14 日目	／

	月日	
15 日 目	／	
16 日 目	／	
17 日 目	／	
18 日 目	／	
19 日 目	／	
20 日 目	／	
21 日 目	／	

	月日	
22 日 目	／	
23 日 目	／	
24 日 目	／	
25 日 目	／	
26 日 目	／	
27 日 目	／	
28 日 目	／	

退院後の日常生活について

●皮膚症状（手足症候群を含む）

治療が進むにつれて、しびれ、物にふれたときの不快な感覚、焼けるような・チクチクする・ピリピリするといった感覚、腫れや赤み、爪の変形などの症状が強くなる場合があります

進行すると、症状に痛みを伴う、皮膚が固くなってひびわれしている、水ぶくれや潰瘍など、日常生活に支障をきたします

気になる症状がある場合は早めに医療スタッフに相談しましょう

冊子（治療日誌）に記載されている日常生活上の注意点を参考にしましょう

カバー（手袋）は次回の治療時、忘れずにお持ちください

●口内炎

うがいはこまめにしましょう（1日7～8回が目安）

食後は、歯ブラシを使って歯を磨きましょう

虫歯、歯肉炎、義歯などの口腔内の不具合はないか確認しましょう

治療開始後、歯科治療が必要なときは歯科受診について、医師にご相談ください

●活動

無理をしない程度で体を動かしましょう

活動の内容や範囲に制限はありません

白血球が下がっているときは、なるべく人混みは避けましょう

外出時は、マスクを着用して、帰宅時に手洗い・うがいをしましょう

活動について迷うことがあれば、医療スタッフにご相談ください



●食事

無理せず食べられるものを探し、食事はゆっくりと時間をかけたり、少量ずつ可能な範囲で食べるとよいでしょう

食事ごとに吐いてしまうようなときは、

1～2食、食事は控えてみましょう

この場合も水分はできるだけとりましょう



●清潔

入浴やシャワー浴をして体を清潔にしておきましょう

発熱時やだるさが強い場合は、入浴を控えタオルなどで拭くようにしましょう

歯磨き・うがいをして、口の中を清潔に保ちましょう

（歯ブラシは、小さく毛の柔らかいものを使用しましょう）

●性生活について（パートナーの方も一緒に読みましょう）



【パートナーとの関係について】

治療を受けた後は、性生活に様々な変化が見られることがあります

退院後、パートナーとの関係に不安を持つ方も少なくありません

自分の気持ちを伝えたり、治療前の事にこだわらず話し合うことが大切です

●仕事

社会復帰（特に重労働：荷物運びや長時間の立ち仕事、長期の旅行、スポーツ）については、医師と相談してください

これから先、安心して働き続けるためには
体の状態に合わせた休み方や働き方が必要に
なることもあります

病院では、患者さんの「働きたい！」を
サポートしています

ご相談は、がん相談支援センターへお問い合わせください



●お薬

薬の処方がある方は、医師の指示どおりに服用してください

他の病院の薬を服用する場合は、医師に相談してください



●その他

インフルエンザ等の予防接種を希望される場合は、医師にご相談ください

次回外来受診・入院時も、このパンフレットをお持ちください



- ◆ 38.0℃を超える熱が出たとき
- ◆ 吐き気があり、水分・食事がほとんどとれない日が続くとき
- ◆ 体を起こすこともできないほどの強いだるさが続くとき

上記のような症状がある場合や、その他ご心配なことがある場合は
がん相談支援センターにご連絡ください

◆ 四国がんセンターの連絡先 ◆

【平日】 8:30～17:15
四国がんセンター がん相談支援センター
(直通番号) 089-999-1114

【平日上記時間外および土・日・祝日】
日直/夜間当直師長
(代表番号) 089-999-1111

翌日以降の外来受診日や検査予約日の変更
【平日】 13:00～17:00
四国がんセンター 予約センター
(直通番号) 089-999-1112



ドキシル+カルボプラチン療法を受けられる方へ